

Newsletter

Vol. 20



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学



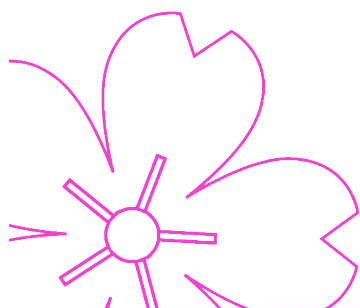
研究教育協力センター

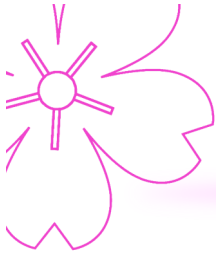
CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

April 28th, 2023

目次:

- ① チュラロンコン大学・マヒドン大学訪問報告 ——— 1
- ② チュラJDP M2017生 学位記授与&M2020生 論文企画試験 — 2
- ③ チュラJDP M2021生 学生の来日 ——— 2
- ④ マヒドンJDP 一期生の来日 ——— 3
- ⑤ マヒドンJDP 2年次論文企画審査 ——— 4
- ⑥ マヒドンJDP 1年次学生面談 ——— 5





①チュラロンコーン大学・マヒドン大学 訪問報告

新型コロナウィルス感染症の感染状況も落ち着きを見せ始めた2023年1月、チュラロンコーン大学での業務のため、バンコク出張をしました。久しぶりに降り立ったスワンナプーム国際空港は人影も薄いものでしたが、旧正月の時期のためか中国系の観光客を多く見かけました。ARL・BTSでサイアムスクエアに到着すると、旧正月を祝うイベントをマスク着用で楽しむ人々で賑わい、新型コロナウイルス感染症と日常生活の折り合いをうまくつけながら過ごしている様子でした。そして、ポストコロナの生活を創り上げる活気に満ちた街の雰囲気は、久しぶりの海外出張への不安を払拭してくれるものでした。2010年開所のチュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究協力センターは1ヶ月の長期出張時にも利用した施設であります。コロナ禍でも頻りに活用されており、両校にとどまらず、タイ・日本の研究協力の発展に大きな役割を果たしているものと思います。センター管理に携わるAssoc. Prof. Atiphan Pimkhaokhamと大学敷地内を歩いていると、20数年前、チュラロンコーン大学歯学部と本学歯学部の学生交流を始める際に大変お世話になったAssoc. Prof. Somsri Rojanawatsirivejが偶然に声をかけてくださり、教員としての今の生活をご報告することもできました。オンライン交流も新しいツールではありますが、偶然に価値を見出せる人と人の直接の交流あってこそその国際交流の温かさ、その必要性を感じた瞬間でもありました。■

✧ 歯学教育システム評価学分野 分野長 鶴田 潤 准教授



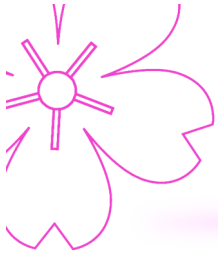
病院1号棟の前で、左から：Atiphan 准教授、Somsinee助教、Somsri准教授、鶴田准教授



Chinese New Yearの夜のキャンパス・新歯学部病院の風景



CU-TMDU research and education collaboration centerでのAtiphan Pimkhaokham 准教授



② チュラJDP M2017生 学位記授与 & M2020生 論文企画試験

昨年度に引き続き、第二期生のタイ人学生3名が、2022年7月にチュラJDPを修了しました。コロナ禍においても、Zoom等を用いて論文指導を行い、二期生全員が無事修了する運びとなりました。タイでもコロナは落ち着いてきているようで、2022年11月には二期生の学位記授与式も盛大に執り行われたようです。

2022年11月には、第五期生の論文企画試験も行われ、3名全員が合格しました。今後もチュラJDPを通じて、国際的にリーダーシップを発揮できる高度専門医療人の育成に励みます。■

＊統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



修了生3名



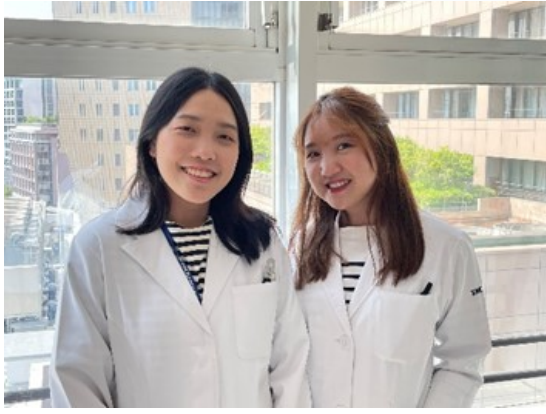
チュラJDP学生及び関連教員



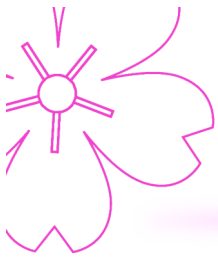
③チュラJDP M2021生 学生の来日

第六期生となる2021年度入学生2名が、2022年12月1日に渡日し、本学の顎顔面矯正学分野及び咬合機能矯正学分野での研究を開始しました。コロナの影響もまだあり、通常よりも半年ほど遅れての渡日となりましたが、これから約1年間、研究データの収集・解析を行い、論文作成に取り組めます。研究だけでなく、本学の留学生や日本人学生との交流をとおして、日本語や日本の文化等についても吸収できる良い機会となることを期待しています。■

＊統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



渡日中の2020年度入学生・2021年度入学生



④ マヒドンJDP 一期生の来日

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来日が遅れていた一期生2名が、2022年10月より来日し、本学での臨床実習、研究活動を開始しました。

各診療科、受け入れ分野の教員の協力の元、消化管外科での臨床実習では、診療科の教員が他診療科と連携を取りながら徐々に内視鏡(消化器内科)の実習へと幅を広げつつ、論文執筆との両立に励んでいます。幹細胞制御分野での研究活動においては、新しい研究プロジェクトの一員として迎え入れられ、熱心に活動を続けています。

さらに、2名共に日本文化・習慣・疾患分布に高い関心を示し、日本語の学修を通じてコミュニケーションやネットワークの構築を広げるなど、JDPの利点を生かして活動する姿に、グローバルで活躍する人材として早くも期待が寄せられています。■

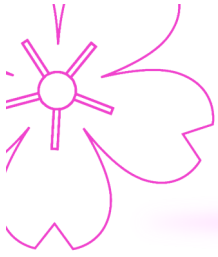
※ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



2022年10月から本学での実習を開始した一期生

左: 幹細胞制御分野で研究を行うTanakorn氏

右: 消化管外科で臨床実習を行うTharathorn氏



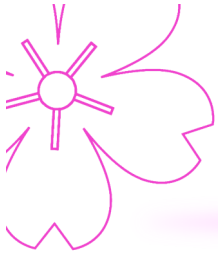
⑤ マヒドンJDP 2年次論文企画審査

2022年11月14日及び24日に、マヒドン大学及び東京医科歯科大学の指導教員により構成された評価委員による審査の元、Zoomで論文企画審査が行われました。論文企画審査の目的は、博士論文の作成を行うにあたり、思考過程を表現する能力、分析力、問題解決能力を備えており、自力で研究を構築する準備が整っていることを確認することにあります。2年次の学生3名は、自身の研究課題及び研究計画のプレゼンテーションを行い、評価委員から今後の研究活動に生かすためのアドバイスを受け、研究の第一歩を踏み出しました。今後も定期的に両大学の指導教員へ研究の進捗を報告し、2年後の学位論文審査に臨みます。■

＊ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



マヒドン大学の指導教員と、論文企画審査でプレゼンテーションを行う学生



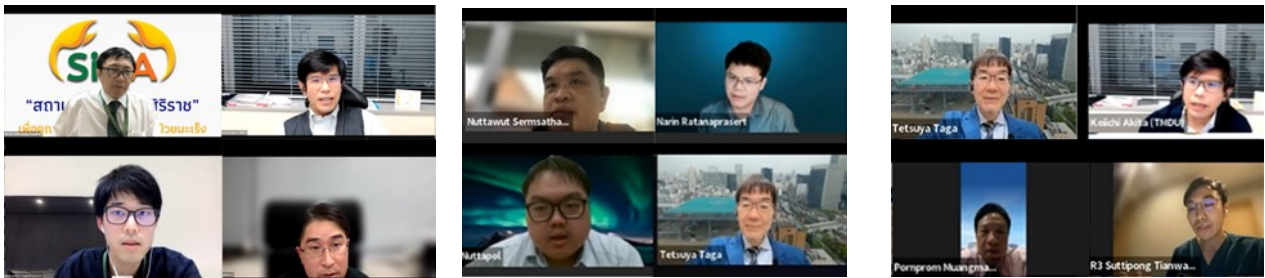
⑥ マヒドンJDP 1年次学生面談

2022年11月29日～30日に、マヒドンJDP 2022年4月入学3名と、学生の研究テーマを考慮し選定された本学及びマヒドン大学の研究担当教員との間で、今後の研究計画について話し合い、指導を行うための面談が行われました。

3名は自身の研究課題及び研究計画のプレゼンテーションを行い、両大学の研究担当教員から今後の研究計画について意見交換及び具体的なアドバイスを受ける貴重な機会となりました。

今後も両大学の研究担当教員が連携しながら指導を行い、研究遂行に必要な知識・技術が修得できるように薦めていきたいと考えております。■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



本学教員とマヒドンJDP1年次3名との面談の様子

【発行日】 2023年(令和5年) 4月28日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

https://www.tmd.ac.jp/international/globalization/tmdu_international_collaboration_centers/thai/

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn
University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand